

令和6年度指導教諭による「授業力アップ講座」⑦⑧

今号では、11・12月に実施された2つの授業力アップ講座を紹介します。

11月14日(木) 一関市立一関小学校
第5学年 算数:「三角形と四角形の面積」

授業者 須藤 直子 先生

提案授業

定義や性質に基づいて任意の図形に広げたり、求積方法を統合的に考えたりする活動を通して、図形に対する見方や感覚を豊かにする授業でした。

ICTを活用することで、児童は、図形の頂点を動かしながら等積変形する様子を動的に捉えることができ、既習の求積しやすい図形に変形して考えるよさを実感できる授業でした。



児童から「そうかあ!」「なるほど!」などの声が聞かれ、図形の見方が広がる姿が見られました。

研究協議

図形を指導する際のポイントについて、「図形の構成要素に着目させること」「倍積変形のように図形を補って考えること」「様々な方向から図形を観察すること」など見方を豊かにする指導の大切さについて話題となりました。

また、須藤先生は、単元を通してこうした図形の見方が豊かになるように意識して指導を行っていくこと、児童が働かせた見方・考え方を価値付けながら資質・能力を育成していくことが大切であると話されていました。

👉 須藤先生から学ぶ

算数の授業のポイント!

- ◆図形の見方を豊かにする指導を行うこと。
 - ・図形の構成要素に着目させ、観察させること。
 - ・図形を動的に捉えさせたり、向きや方向を変えながら観察させたりすること。

参加者の声(一部抜粋)

- ・図形の構成要素や見えない部分に着目させることが大切であることが分かりました。
- ・単元を通して、児童が「既習の形に帰着して考える」ことを「見いだす」ことが大切であると感じました。
- ・図形の見方を豊かにすることを目標と考えられた単元構想が参考になりました。
- ・必要な場面での学び合いや、ICTの活用が勉強になりました。

12月3日(火) 奥州市立水沢中学校
第2学年 国語:「6 いにしへの心を訪ねる 漢詩の風景」

授業者 佐藤 明子 先生

提案授業

好きな漢詩と選んだ理由をグループで話し合うことを通して、観点を明確にして漢詩を比較し、構成や表現の効果について考える授業でした。

十分に時間が保障された中、グループで交流しながら自分の考えをまとめることで、表現技法や色を表す言葉から受ける印象など、着目する言葉を明確にしながら自分の考えを深めることができる授業でした。また、生徒の振り返りには、発表を聞き合って友達との共通点や相違点に気づき、様々な視点で漢詩を味わうことができた記述が見られました。



説明・協議

古典の授業のポイントとして、「声に出して読み、慣れ親しんで授業に臨むこと」「文法は得意になるまで徹底的に積み重ねること」「表現のすばらしさを授業者自身が実感して授業すること」ということが話題になりました。

また、佐藤先生は、生徒が「書く」ことを大切にしようとするプリントの工夫についても話されていました。

👉 佐藤先生の授業から学ぶ

国語の授業のポイント!

- ◆思考や活動の時間を十分に確保するために、単元のはじめから生徒とゴールを共有し、導入を短くすること。
- ◆教師が説明しがちな場面も生徒に問い、自分で学び方や着目する言葉を見いだすよう促すこと。

参加者の声(一部抜粋)

- ・生徒が使用するプリントを選ぶ、課題解決に向けてどのようにアプローチしたいか選ぶなど、主体的に学習している姿が印象的でした。
- ・説明を極力せずに、できるだけ生徒に考えさせたり、生徒の発言の中から答えを導きだしたりさせたいと思いました。